

スケッチの説明

B M 生

場所は信州の高原時はまだ肌寒き早春。南に面せる雪は皆解けて、陽皇の使者は早くも到り、枯残りて色あせたる、去年草のあわいより萌ひ初むる若草。雲井遙けき雲雀も啼けば。山里の稚子等打ち連れだちて、小河のほとりに芦摘み、あるは堤の蒲公英、土筆、か争ひ。平和をさや長閑けき日和の空は、快晴にあらざ、曇れるにもあらず、太陽はありくと丸く見られ、淡き光りはもれて我等が地上の影も淡し。赤土の坂路を辿りて我が家に歸る馬子歌。春の邊の溫和なる趣きを深からしむ。かしこゝに散在せる茅屋、それに住みける無邪氣なる人々は、その日々の世渡りに、都に見ざるスケートホームは作られき、あゝ自然界の麗しき事よ。さまざまなる感興は我が胸に湧き出て。さては路傍に三脚を据えてこの畫を作りしなり。描法、レモンエンロー、若しくはネーブルスエルロー、にローズマダー、を混じ、これを薄くして全紙に塗り。コバルト、にネーブルスエルロー、及びカーミンを混じ、雲其の他陰の色を描く。茅屋、道路は。ライトレッド、若くはカーミン、に黄を混ぜしものを用ゆ。遠山はコバルト、に少しのローズマダー、を加へて着色す。黒き森は常磐樹で、これはインデゴ、にオリユブエルロー、を混じ、家の左方にある樹は、樺柏の如き枯葉の残れるもの、これはエルローオーカー、にコバルト、クリミ、ゾンレーキ、を混じたるもの。其の他明るき美しき色はレモン、又はクロームエルロー、の如きもの、若草の淡緑はエメラルド、グリーン、又はホーカスグリーン、の如きもの、これ等は陰色を先に描きて、あとにて附着すべし。陰の部の尤も強き暗き色は、最終に附すなり。右の外は宜敷原畫を見て、似寄りたる色を附着するを要す。

常葉草

(ローレル會誌)

- 見送りのかへさ淋しき夕ぐるま露の小草野月あらはれぬ
田中花涙
- ゆく春を思ひにこもる姫のごと籠の鶯啼かずなりにし
吉岡夕舟
- うつくしき島の御堂に白鳥のさだめを榮えて波に散る朝
筒井紅嵐
- 御簾まきて花の香にゑむ姫君の月のおぼしま何を憚かる
村田愛美
- 大鐘のひびき消え行く青淵の水にこぼれぬ宵月のかげ
長谷白眠
- 静けさは菱吞鯉に波ゆれて蘆の花ちる月の大沼
鹽田香園
- 夕霧やともし火あはき野の家を歌に思ひて辿り來る宵
田中靜潮
- 琉璃流す小春の海にたゞよひぬ高天翔ける大とりの影
小山田千紅
- 秋鳥はうす靄ゆらぐ朝庭の花に來て鳴く二人が興と
平川芝峯
- 江戸名所姥が遊山は観音の御鬮うれしく錦繪買ひぬ
渡邊光風

* * *